

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500162
法人名	社会福祉法人 はぴねす福祉会
事業所名	グループホーム LOHAS・KOTI
所在地	愛媛県新居浜市船木甲2216-39
自己評価作成日	平成24年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日当たりの良い、自然に囲まれた静かな環境にあり、季節を感じながら、穏やかに過ごしていただいている。利用者の一人ひとりの気持や個性に寄り添い、環境を整えることで、その人本来の力が活き活きと発揮できるように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMAGS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年11月8日

●今年1月に管理者・ケアマネジャーの交代があり、記録類の見直しに取組まれた。日々の介護記録内に介護計画に沿ったケアが実践できているか、モニタリングできるような仕組みを作り、計画の評価や見直しにつながるようにされた。介護計画は、職員の気付きや利用者の持っている力を採り入れるよう取組まれており、字を書くことで集中する時間が作られ、再々トイレを気にしておられた方の症状が落ち着いたようなケースや、又、カメを世話することで、閉じこもりがちになっている利用者の意欲向上が見られるようになったケースもある。介護計画に挙げた支援内容を職員で共有して取り組むことで、成果が表れているような事例も少なくない。

●前回の外部評価実施後、目標達成計画にも取り上げて、「ユニット間の仕切りの開放」「玄関の解錠」に取り組まれた。管理者は、職員に「鍵をかけないケア」の意義を説明し、利用者の行動を「見守る」ことの大切さを話された。管理者は、「解錠することが、職員のケアに対する意識の向上につながった」と実感されていた。又、利用者や職員もユニット間を行き来され、「表情も明るくなった」ようだ。歩行状態のよい利用者が転倒したことをきっかけに、事業所では、利用者全員の「履物」の点検をされた。これまで、スリッパを利用していた方も多かったようだが、利用者個々に合った履物で過ごせるように改善をされた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム LOHAS・KOTI

(ユニット名) 西の家

記入者(管理者)

氏 名 篠原 里恵

評価完了日 平成24 年 10 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 職員の共有理念として、「今日一日をその人らしく」・「同じ目線、同じ歩幅でゆっくりと」を目標に、理念がケアに反映されるように意識して取り組んでいる。この理念を玄関やユニット毎に掲示し、来訪者にも分かるようにしている。	
			(外部評価) 事業所では、理念にもとづき、「利用者がやりたいことを行える」ように、「待つ」ことを大切にしたケアに取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 隣接する母体施設の催しや、地域で開催される行事やお祭りににはできるだけ参加し、地域の方との交流を図っている。地域のスーパーや美容院等も利用している。また、見学の受け入れも積極的に行っている。	
			(外部評価) 自治会長等が運営推進会議時に、「盆踊り大会」「住民運動会」等、地区行事に誘ってくださり、2～3名の利用者と職員で参加されている。盆踊り大会は、夕方から出かけ、雰囲気を楽しまれたり、地区の方達の輪に入り、一緒に踊りを楽しまれた。事業所は、開設当初から、地区のスーパーや美容室を利用されており、利用者と一緒に食材の買い出しに出かけたり、美容室の方は毎月来て、利用者のカットをしてくださっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 問い合わせや電話相談・見学などには、丁寧に対応し、地域の人々が立ち入りやすい場所であることを理解してもらえるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の活動報告や課題などについて意見交換を行い、意見や提案などについては、運営に活かせるように努めている。会議の日程を固定し、参加を呼びかけているが、家族の参加が少ない。	
			(外部評価) 会議には、自治会長や民生委員の方が参加してくださっている。会議時、事業所からは、利用者の介護度や入・退院等の状況を報告されたり、行事の様子や今後の行事予定等も報告されている。又、外部評価結果の報告や目標達成計画についても資料を作り、報告をされている。	会議時に、事業所が課題に思われているようなことを相談して、地域の方達の力も借りながら、取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。たとえば、「事業所に協力してくださる方を増やす」取り組みや「地域資源と利用者をつなぐ」取り組み、又、「災害時、地域と協力し合えるような体制作り」等、会議を活かして地域の方達と一緒に考えてみてはどうだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域密着部会の定例会に参加し、市の担当者からの情報や意見を聞く機会を設けている。日常的な相談事項や報告は直接訪問し、担当者に意見を求めるようにし、連携を図っている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、地域包括支援センターの担当者の方が出席してくださり、市内の介護事業所の待機者数や市の介護事業の取り組み等を説明してくださっている。介護相談員は、1名、3ヶ月に1回訪問があり、利用者とお話して事業所の生活についての希望を聞き取ってくださっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 生活空間は、両ユニットが交流できるように、ユニット間の仕切りを開放し、玄関の施錠は夜間のみで、日中はすべて開放。いつでも誰でも出入りできる環境にしている。また、身体拘束に関する勉強会を通じて、職員の理解を深めている。	
			(外部評価) 前回の外部評価実施後、目標達成計画にも取り上げて、「ユニット間の仕切りの開放」「玄関の解錠」に取り組まれた。管理者は、職員に「鍵をかけないケア」の意義を説明し、利用者の行動を「見守る」ことの大切さを話された。管理者は、「解錠することが、職員のケアに対する意識の向上につながった」と実感されていた。又、利用者や職員もユニット間を行き来され、「表情も明るくなった」ようだ。歩行状態のよい利用者が転倒したことをきっかけに、事業所では、利用者全員の「履物」の点検をされた。これまで、スリッパを利用していても多かったようだが、利用者個々に合った履物で過ごせるように改善をされた。外部研修に参加した際の身体拘束に関する資料を用いて、勉強会等を行っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待について、職員の共有認識が図れるように、研修を行っている。職員の関わり方が利用者の気持ちを抑圧していないか、ケース会などを通じて振り返る機会をもっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、具体的な事例は無いが、利用者の権利を守るために必要な制度として認識し、勉強会を通じて制度への理解を深めるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前に、重要事項の説明を十分行い、リスク等についても、利用者やご家族に十分理解していただいたうえで、契約書を交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などに、ご家族の意見や思いを汲み取る機会を設けている。利用者の誕生日には、ご家族と一緒に食事を楽しんでお祝いする会を設けたり、行事に参加してもらう等、日頃から話しやすい雰囲気作りを心がけている。意見や提案が運営に反映されるように前向きに検討している。 (外部評価) 事業所主催の夏祭りを、今年は日中、事業所内で開催され7名のご家族が参加された。利用者と職員で準備した「ところてん」や、「お菓子のつかみどり」、焼きそば等の食べ物等を、ご家族も一緒に楽しめた。事業所では、「ご家族に來訪する機会を増やして欲しい」と願い、衣替えの季節には、ご家族に協力をお願いされたり、日頃の様子を小まめに電話等で報告されたり、又、お手紙等で関係作りにも努力をされている。利用者の写真は、ご家族への送付書類に同封もされるが、個々に職員がアルバムを手作りして、居室に置き、ご家族が來られた際、利用者と一緒に見てもらえるようにされている。	ご家族は、「受診もホームでお願いします」と言われる方も多く、「すべてをホームに任せたい」と要望のある様子もみられ、事業所では「ご家族がホームから足遠くなっている」ことを感じておられる。ご家族や地域の方達とともに、利用者を支えていくことがグループホームケアの特徴でもあり、ご家族の理解や協力は、ケアに取り組むための大切な要素でもある。今後さらに、ご家族との関係作りへの取り組みの工夫が期待される。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回の職員会では、意見交換や様々な課題の検討を行い、職員の意見や提案が運営に反映できるように前向きに検討している。	
			(外部評価) 食欲が低下した利用者が、職員が持参した昼食のお弁当に興味を持たれたことから、「食事をお弁当箱に詰める」ことを職員は試され、利用者の食欲が増したということもあった。法人では、職員がいろいろな種類の介護事業所を異動して経験を積み、スキルアップできるよう、異動する仕組みとなっている。さらに、「馴染みの職員が利用者に継続してかわる」ことが、地域密着型サービスの特長でもあり、職員体制等については、現場職員の声を法人に上げていくことを続けていかれてほしい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員の勤務状況や実績を把握しており、職員一人ひとりが意欲をもって働ける職場の環境に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内外の研修に、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修内容は、職員会や閲覧などで報告する機会を設け、実践につなげている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着部会の定例会での勉強会や意見交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人やご家族からの要望や、出来る事、できない事を把握し、サービス内容をできるだけ一緒に考えるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との事前の話し合いの中で、家族の思いを汲み取り、理解していくことで、家族との関係を築くように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やご家族と話し合い、状況を把握しながら、必要と思われる支援を見極めるように努めている。福祉用具や、医療系サービスについても、そのニーズに応じて利用してもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者それぞれの残存機能を活かしながら、役割を持って生活し、職員とも協働しながら、喜びを共に味わい支え合えるような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者と家族の関係を理解し、報告や相談を密に行いながら、良い関係が無理なく継続できるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) これまで本人を支えてくれている家族等からの手紙や外出支援、面会などがある。家族の支援で自宅に日中戻られたり、よく帰省していた遠方の娘宅へ外泊された方もいる。入居前から習っているピアノのレッスンを、引き続き利用できるようにしている。 (外部評価) 今夏、ご家族に暑中見舞いを出す際、利用者にも一言メッセージを書いていただくようにされた。ご家族からお返事が来たような方もある。普段からご自宅のことを気にされる利用者の方に、職員は、受診帰りにご自宅に立ち寄って、庭の草引きができるよう支援されたこともある。利用者は、ご自宅での暮らしの様子を職員に話してくださったようだ。又、らっきょうを漬けた際には、昔の生活の様子を話してくださるような利用者があった。調査訪問時の昼食には、よく漬かったらっきょうが添えられてあり、職員は「～さんが漬けてくださったらっきょうです」と伝えて配膳をされていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性がうまくいくような、働きかけを職員は行い、共に過ごす事が楽しみとなるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次のサービスを探したり、情報などを関係者に引き継ぐ等の支援を行っている。契約終了時には、いつでも相談に応じることを伝えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、本人の言動を良く観察し、表情やしぐさからも伝えたい思いを感じとったりするように努めている。 (外部評価) 入居時、ご家族に利用者ご本人の周辺環境や生活の様子 の情報を聞き取っておられ、職員は、利用者個々の性格等 もよく知って対応しておられる。近くの「池田池」に菖蒲の花 を見に出かけた際には、「私はこの色が好きよ」と、好きな 色を教えてくださいました。調査訪問時、100歳を超えた利用者 の方が「この歳になったらあまり食べれないから、珍しいもの を少しでも食べれたらいいのよ」と話してくださいました。	職員は、法人内の異動もあり、今後も管理者・ケアマネ ジャー等の異動も予想される。利用者個々の暮らし方の希 望や大切にしていること、生活のこだわり等の情報、又、「こ れまでのこと・現在のこと・これからのこと」について、情報収 集に取り組み、職員で共有してケアに取り組めるような仕組 み作りが期待される。さらに、事業所理念にもある「今日一日 をその人らしく」暮らせるような支援につなげていかれてほし い。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の生活歴やサービス利用に至った経過など、家族や本人からの聞き取った情報をもとに、本人を知るような取り組みを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを職員は把握し、個別ケアに努めている。職員が一緒にやってみるような場面をつくり、出来る事を見出している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			介護計画は、本人や家族の希望や意向をとりいれ、六ヶ月に一度見直しを行っている。月2回ケース会を開催しモニタリングを実施。三ヶ月毎に定期見直しや、状態変化に応じて、職員の意見を参考に修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			今年1月に管理者・ケアマネジャーの交代があり、記録類の見直しに組み込まれた。日々の介護記録内に介護計画に沿ったケアが実践できているか、モニタリングできるような仕組みを作り、計画の評価や見直しにつながるようにされた。介護計画は、職員の気づきや利用者の持っている力を採り入れるよう取り組まれており、字を書くことで集中する時間が作られ、再々トイレを気にしておられた方の症状が落ち着いたようなケースや、又、カメを世話することで、閉じこもりがちになっている利用者の意欲向上が見られるようになったケースもある。介護計画に挙げた支援内容を職員で共有して取り組むことで、成果が表れているような事例も少なくない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人や家族の状況に応じて、通院や外出支援など、出来る限り柔軟に対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			本人の希望に応じて、地域の理美容サービスを利用したり、訪問してもらったりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			入所前からのかかりつけ医の場合は、受診介助は家族に依頼している。状況に応じ、職員が対応している。受診結果は記録し、家族と共有している。訪問診療にきてもらうケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(外部評価)	
			ご家族が受診に付き添われたり、遠方に住むご家族等、ご家族の都合によっては、職員が受診に同行されている。現在、夜間等、協力医の訪問診療の協力を得ることが難しく、緊急時には救急車を呼び、救急病院で診てもらおうようになっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			家族や医療機関との連携や情報交換を行い、早期退院に向け受け入れ体制を整えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			契約時には、事業所の方針を説明している。利用者の状態変化に伴い、常に家族の意向も確認しながら、事業所でできる支援について説明している。	
			(外部評価)	
			入居契約時に「看とりの指針」に沿い、利用者ご家族にお話されているが、これまでは、具体的なご家族の意向を知るまでには至っていない。ご家族の中には介護施設の申し込みをされる方もあるが、管理者は、「最期までホームに任せたい」と思っておられるご家族も多いのではないかと感じておられる。入浴の介助が必要になっても、安全に浴槽で温まることができるように、12月に浴室を改修する予定となっている。	事業所は、現在、介護度が重度の利用者も複数おられ、看とり支援の必要性を感じておられる。終末期のあり方については、利用者の希望等を基にして、ご家族の意向等もお聞きしながら支援していかれてほしい。又、医療機関やご家族とも協力し合えるような体制作りに向けて、話し合いを重ねながら取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員会等で、定期的に応急手当や、緊急時の対応マニュアルについて勉強し、職員間で周知できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日中や夜間を想定して、避難訓練を利用者とともに行っている。地域との協力体制はまだ構築されていない。今後は地震や水害などの具体的災害を想定して、必要な訓練の実施に努めたい。 (外部評価) 隣接する法人介護施設に備蓄が設置されており、運営推進会議時には、「災害時、事業所の建物を地域の方達にも使用してほしい」ことを伝えておられる。11月中旬には、消防署の協力を得て「総合訓練」を実施する予定となっており、「火災を想定した避難訓練」や「通報訓練」を行い、すべての職員が体験できるよう、取り組まれる予定となっている。管理者は、避難訓練に「ご家族にも参加してもらいたい」と話しておられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーに配慮した、言葉かけや姿勢を心がけ、職員間で利用者一人ひとりの対応について確認している。 (外部評価) 事業所では、利用者の「やりたい気持ちを大切にしたい」という思いで取り組まれており、ご本人の「歩きたい気持ち」や「自分のことは自分でやりたい気持ち」を大切に支援されている。利用者の中には、毎朝5時に起床して職員に「何かやることはない？」と聞いてくださる方があり、職員は朝食作りをお願いして、一緒に作るようにされている。職員は、「～さんがいなくなったら困るわ」「すごく助かる」等、感謝の気持ちを伝えるようにされている。若い職員が編み物の得意な利用者に、かぎ針編みでモチーフの編み方を教わっておられ、編めるようになったことを利用者も一緒に喜ばれたようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態に合わせ、本人の希望が選択できるような場面作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の流れに添った中で、一人ひとりのペースを大 切にその日の体調に応じた対応を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 利用者の化粧品購入や、馴染みの美容院で希望に合わせ た、カットや毛染めを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 普段は、隣接施設からの配食で、利用者に食事の準備や後 片付けなどを手伝ってもらっている。職員とともに食事をし、 楽しく食事が出来るように心がけている。月に数回は、行事 食やお誕生会で利用者と一緒に食事作りやおやつ作りをし ている。 (外部評価) 利用者の状態によって、食器の大きさや軽さ等にも配慮され ており、調査訪問時は、一品一品を小さい器に盛り、ご自分 で持って食べられるようにしておられた。食後には器を重ね たり、数回に分けて下膳している利用者や食器洗いする利 用者もみられた。お誕生日や行事等、月に3回程度は事業 所で食事を手作りする日を作っておられる。利用者のお好き なものを作っておられ、普段より食欲も増すようだ。台所のカ ウンターには、掲示板を置き、利用者が食事をしたことがわ かるように「7:30に朝食をみんなおいしく食べました」等とメッ セージを書くようにされている。それを見て食事をしたことを 確認する利用者もあるようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量や水分量を記録し把握している。摂取できに くい利用者には、食事形態を変更したり、トロミをつける等の 工夫をして、適切に対応している。できるだけ自分で食べて もらうようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨き・うがいの声かけを行っている。個々の状態 に合わせ、見守り・声かけ・介助を行い、確認を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄記録表を活用しながら、個々の習慣や排泄パターンを把握し、さりげなく誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			屋内外への散歩や体操を行い、身体を動かす機会を設け自然排泄できるように努めている。また、水分補給や、乳製品等をおやつに取り入れるなど工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			本人の気持ちに添うように対応し、一人ずつゆっくりと入浴してもらうようにしている。入浴を嫌がる方にはタイミング良く声かけを行い、スムーズに入浴できるように支援。血行促進の為、入浴以外で足浴を実施している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			一般家庭のような浴室で、浴槽のふちに可動式の手すりを設置されていたり、回転盤を置いて職員が介助して浴槽に入れるようにされていたり、又、浴槽から外に出る時にはお湯を抜いてから支援するような場合もある。現在は、2日に1回入浴できるよう支援されているが、利用者の希望で毎日入浴する方もある。利用者は、お風呂がお好きな方が多く、職員が個々に入浴をすすめ支援されている。中には気が向かないような利用者もあるが、体操した後、そのまま入浴につなげられるよう、声をかける等工夫されている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の薬の内容が把握できるように、個人ファイルに処方内容をまとめ、職員全員が情報を確認できるようにしている。飲み忘れや誤薬のないように個々の薬袋で管理し、服薬確認もチェックしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で、掃除や食器の後片付け、洗濯たたみなどの役割を持ってもらっているが、重度化に伴い、出来る方が少なくなった。編み物や写経、プランターで花や野菜を育てるなど職員とともに楽しみながら実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節ごとの外出や、個別の外出や散歩の支援を職員や家族の協力を得ながら実施している。重度の方も車椅子で中庭を散歩し、外気に触れるようにしている。 (外部評価) 桜のお花見の際は、利用者数人ずつ出かけられるよう支援された。中庭は、居間から直接出られ、又、建物の周りをぐるっと回れる造りになっており、介護度が重度の利用者も、外の空気に触れる機会が作りやすい環境となっている。	歩行状態が安定している利用者の方は、地域行事や食材の買い出し等、日常的な外出の機会もあるが、車いすを利用する方や歩行が不安定な利用者の外出支援については、少なめの現状にある。出かけ難いような利用者も、個別に行きたいところ等もうかがいながら、出かけてみるような取り組みもすすめていかれてほしい。又、利用者が地域に出かけての感想を運営推進会議等で話し合う等、出かけやすい地域環境作りに向けて、話し合うような機会も作ってみてはどうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者がお金を所持したり、使う事への積極的支援は行えていないが、金銭管理ができる方には、自己管理をもらい、買い物などでご自身で支払えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じて、電話をかけられるように支援している。また、絵葉書などで近況をお知らせしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感のある飾りつけや、作品などを利用者と一緒に作ったりしている。毎月環境整備を行い、利用者にとって居心地の良い環境に努めている。リビングでは、懐メロや唱歌などの音楽を流している。	
			(外部評価) 高台にある事業所は、オーストラリアの高齢施設と同じ建物を用い ておられ、色彩もきれいな色が使用されている。共用空間・居室とも床暖房で足元が温かく、天井は高い造りとなっている。調査訪問時には、周りの山々も色づき始め、窓から自然の風が事業所の中に入ってきていた。居間とは別に、テレビを観賞する間や談話する間があり、ひざかけ等も用意されている。又、調査訪問時には、中庭で、利用者が日向ぼっこしたり、植物に水を遣っている様子もみられた。台所は、オープンキッチンで居間から台所の様子も見え、調査訪問時にはカレーのにおいがしていた。絵画等も各所に飾られてあり、落ち着いた雰囲気、食事中はBGMに童謡をかけておられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者同士の座席の配慮や、リビングや中庭等で、思い思いにくつろげる場所がある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や家族写真、花、好きな芸能人のポスターなどを飾られている。自宅から、仏壇やパチンコ台やピアノを持ってこられている方もいて、安心感や満足感の支援につながっている。	
			(外部評価) 居室前には、個々に棚が造られてあり、毎月のフラワーアレンジメント時に生けたお花を飾っておられ、お花を自分の居室の目印にしている方もいる。又、利用者によっては、入り口ドアの持ち手にハンカチを結んだり、ぬいぐるみを付けたりしている方もあった。居室内には、トイレや洗面台が付いており、食後、歯磨きをする方や日中も自室のトイレを使う方もいる。ご家族の写真を飾っておられる方やパチンコ台を置き、音を楽しんでいる方もいる。又、日記を書いたり、写経をする方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者のできる事、わかる事を活かし、各居室には名前や目印をつけ、環境面を工夫している。また、利用者同士助け合ったり、職員も見守り支援しながら、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。	